

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200412
法人名	社会福祉法人 厚仁会
事業所名	グループホーム さぬき富士
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 1 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770200412-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 5 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

讃岐富士のふもとに建ち、日中は花や緑に囲まれ、夜は綺麗な夜景が見える落ち着いた環境の中で生活している。ホームの理念にあるように、「笑顔・優しさ・おもいやり」を職員全員が持ち、ご利用者の方と楽しい一日を、一緒に過ごせるように心がけている。ご家族の方と一緒に、ご利用者の方が生きがいを持って自立した生活を送れるよう、管理者・職員みんなで話し合って支援している。また、ご利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせ、無理のない、安心安全な生活ができ、また、日常の健康管理や事故・緊急時に対応できるよう、主治医・看護師・協力病院との連携をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれ、山の麓だけに坂が多く空気がうまい。コロナ禍で、面会や外出が困難で、寂しい気持ちを自然が癒やしてくれる。自然に溶け込んだ庭先でお茶会をしたり、軒先のベンチで、のんびりと日向ぼっこをしたり、人に触れたいときには、耳が遠いことから顔を見ながら、声を確かめられるように電話を活用したりして、寂しさを紛らわせている。様々な面からストレス解消に少しでも役立てるように職員は工夫している。グループの施設11か所との朝礼をズームで毎日行い、3週間に一度の近況発表と合わせて、施設の情報やヒントなどをいち早く取得し、毎月の委員会も業務内で確認できないことや悩みなども話しがし易いように全員で活用している。散歩時に「グループの人なかなかあ」と声をかけてくれ、身近な交流から心ウキウキとなるシーンもチラホラ。利用者の思いを叶えるよう、讃岐富士の頂を見上げる如く、理念の成分化した頂きを手にしようと、関わる人みんな、気持ちを戒めながら実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔・優しさ・思いやり」をかかげ、朝礼では理念に基づく事例を発表し、実践につなげている。	理念は玄関に掲げている。朝礼はzoomを使って、法人全体で行っている。3週間に1回、各部署から『おもいやりシート』の発表があり、法人全体で意見交換ができています。申し送りや行事についても共通認識ができています。	経営理念を大きく掲示したり、写真を掲載して、全体に周知できるようにしてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年・本年と、新型コロナウイルス流行の為、面会や行事などを中止しており、外部(地域)の方との交流が出来ていない。今後、新型コロナウイルスの状況を見ながら、少しずつ地域との交流を持てるように取り組んでいきたい。	コロナ以前は、七夕祭りで小学生の訪問、神輿や獅子舞などが来てくれていた。隣接する施設の人と散歩中に挨拶を交わしたり、「グループの人なんかなー？」と言葉を掛けられることもある。法人内にある学校から学生が見学にくることもある。	コロナ終焉に向けて、今からできる地域交流を模索してはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの流行により大勢で集まらなかった為、運営推進協議会での認知症に関する勉強会や現状報告をお手紙で報告し、認知症の理解を深めて頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組み、現状を報告し、参加者からは要望や意見、地域の情報を頂いている。昨年・本年と、新型コロナウイルス流行により大勢で集まらなかった為、お手紙で取り組みや現状の報告を行ない、お電話で要望や意見の聞き取りを行なった。	コロナ以前は、支援課、福祉ママ、自治会長、家族、利用者、園長、職員が参加していた。現在は、書面会議にて開催し、書面を郵送した後に、電話で意見を聴取し、結果は玄関に掲示している。会議で、合同避難訓練を開催してほしいとの意見があり、実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	丸亀市健康福祉部高齢者支援課の担当職員の方には運営推進協議会に参加いただくなど、協力関係を築いている。昨年・本年と、新型コロナウイルス流行により大勢で集まる事ができなかった為、お手紙・お電話にて情報交換を行なった。	市町村への連絡はケアマネが担当している。何かあれば問い合わせをし、何でも教えてくれる関係が形成されている。しゃんと体操のポスターを頂いたり、研修会への参加案内の連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が、身体拘束について正しく理解するよう定期的に勉強会を行ない、拘束を外す為の取組みを話し合っている。身体拘束防止マニュアルを作成している。現在、身体拘束を行なっている利用者様はいない。	身体拘束はしていない。月1回、委員会は法人内合同で、勉強会は施設にて実施している。スピーチロックや拘束の事例検討、虐待について話し合うことで、ケアの確認ができています。日中は基本的に玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等実務者会議に出席し、ホームで虐待について勉強会を行ない、虐待防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームで日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行ない、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時には、利用者様・家族様と一緒に書類に目を通し、1つ1つの疑問点について分かりやすく答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時・行事参加時・運営推進協議会等で、直接意見を聞かせて頂き、市の職員・管理者・職員が問題について検討し、運営に反映させている。年3回情報誌を発行し、近況報告し、情報の共有に努めている。	ホームだよりを活用し、近況報告をしている。施設に足を運ばれた時や電話でのやり取りの際に情報交換をしている。面会の要望があり、窓越し面会を実施し、声が聞き取りにくい場合には電話を活用したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のチーフ会やキャリアパスの面談時などで、職員の意見や提案を聞き、反映している。	職員間で何かあれば、その都度意見を言えるような関係が築かれている。月1回の会議の際には、職員が集まる機会があるので連携が取りやすい。勉強会を通して、意見交換を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。キャリアパスを用いることで、個人の向上を目に見える形で把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、可能な限り研修の参加機会を確保し働きながらトレーニングしていく事を勧めている。本年度は、ウェビナーによる研修もあり、以前より参加しやすかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市健康福祉部高齢者支援課主導によるネットワーク作りにも積極的に参加し、勉強会や施設訪問など、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や困っている事、不安な気持ちを十分に理解し、解決するまで何度も話し合いを重ね関係者から詳しい情報を得ることなど、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、不安な気持ちを十分理解し、解決策や、協力して頂ける事をしっかり話し合い、信頼して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援を見極めるため、職員全員で話し合い、本人様や家族様の要望に添えられるサービスの提供をめざし、また他の職種の意見も取り入れ、チームで協力できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と寄り添い、一緒に生活を過ごす中で喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として沢山の知識を教わり、お互いに支え合う関係を築いている。簡単な家事などを頼み、本人様がこの場で必要とされていると感じられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年・本年と、新型コロナウイルス流行の為、家族様の行事への参加はご遠慮頂いた。面会も制限がかかりご不便をおかけしたが、料金の支払いなど来園時や電話での状態報告時にはしっかりコミュニケーションをとり、一緒にご本人を支え合う関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年・本年と、新型コロナウイルスの流行の為、面会に制限がかかりご不便をおかけした。面会制限の緩和後は、以前のように親戚・知人などの方が訪問しやすい、また話しやすい雰囲気を作り、写真等で日常生活を紹介するなど、笑顔のあふれる支援に努めていく。	個別で散歩に行きたい利用者への付き添いや施設内の桜の木の下で花見を行った。天気の良い日には、軒先のベンチで日向ぼっこをしたり、庭先でお茶会を開催したりすることで、身近での馴染みの場が形成された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や起床のお誘いをして頂いたり、体操やレクリエーション時に利用者様同士で声を掛けあい、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の関係者に情報を詳しく伝えるとともに、その後の状態を見守り、面会に出かけたり、ご家族の方からの相談に応じるなど、フォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調管理に合わせて、不安や訴えを記録し、希望や意向を把握する為、職員全員で話し合い検討し、支援できるよう努めている。	話を多くすることで意見を聞きやすくしている。話をされない方には、表情や仕草などから読み取るようにしている。居室で過ごしたいという利用者には無理をさせず、居室で過ごして頂いている。何かあればタブレットの要望欄に記入することで、職員間の情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過を理解、把握し、その人らしく生活して頂けるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様と一緒に生活していく中で、自分らしさや能力を職員全員が見極め、寄り添い、支援を継続していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成には、ご本人、家族、医師、看護師等関係者と連携を図り、安心安全に過ごして頂けるよう話し合いをし、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はケアマネが作成している。入居時、3ヶ月、6ヶ月毎に見直しをしている。何かあればその都度変更している。日々の介護記録をタブレットに記録することで、水分量、排便、排尿などがすぐにわかるので、職員全員が把握できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の毎日の様子をタブレットを使用して分かりやすく記録し、職員間の申し送りは詳しく行かない情報の共有を図り、新しい気づき・工夫の実践結果等をその都度話し合い、今後の実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の要望に合わせ、特養の喫茶に参加するなどの交流を図ったり、利用者様の身体状況に合わせ、併設施設の車椅子浴槽・特殊浴槽を利用したりするなど、柔軟な支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、月1回飯野町の福祉ママと一緒に楽しみ会や誕生会をしたり、飯野保育所や飯野小学校の訪問があったりと、地域の方と協力しながら支援していた。昨年・本年は、新型コロナウイルス流行の為、中々外部との接触を持っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様と相談し、かかりつけ医を決めている。協力病院から週1回の往診を受けている。適切な医療を受けられるよう連絡・調整を行なっている。	利用者の殆どが、かかりつけ医から協力医に転医されている。週1回ドクターの往診があり、優しい雰囲気でも何でも言える関係が築かれている。ケアハウスに看護師が常駐しているので、何かあればすぐに相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設(特養)の看護師に、毎日利用者様の状態報告を行ない、日常の健康管理や医療の支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した際、病院関係者から状態報告を受けると共に、病院に行きご利用者の状態を把握するよう努めている。また主治医には、毎日状態報告を行ない、指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の在り方について説明し、アンケートで事前にご意見やご要望をお伺いしている。終末期には再度確認して、より良いサービスが出来る様チームで支援している。	看取りは実施しているが、ここ数年はなかった。入居時に指針の説明をし、同意書を交わしている。年1回、法人全体の研修で看取りの研修を実施することで学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。グループホーム職員が、定期的に急変時・事故発生時の対応の研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。主食・飲料水の備蓄をし、定期的な設備点検は、業者に委託している。災害時に備えて、定期的な避難訓練を行ない、運営推進会議では話し合いを行ない、地域の方にも協力・支援をお願いしている。	法人合同で土砂・火災などを年4回実施。避難経路は玄関に掲示し、利用者の名札には、服薬などの情報を書き、連絡網はラインを活用している。避難訓練を「地域の方と一緒にしてほしい」との意見があり、合同で開催したこともある。備蓄は水やご飯、カンパンを3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴をよく知り、その方に合った言葉かけをするように心がけている。声掛けや接し方についても職員全員で話し合い、誇りやプライバシーの確保についても確認しあっている。今年は、法人としてスピーチロックに取り組んだ。	呼称は基本的に苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る時は、必ず声掛けをしている。気が付いたことがあればその都度、職員間で情報共有をして実践につなげている。トイレ介助の際には、すぐ介助できるように扉の前で待つことでプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・着替え・食事や飲み物・睡眠・行事参加等、ご利用者様の自己決定を促す言葉かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の体調や希望を取り入れながら、その方に合ったペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・外出時などに自分で服を選んで頂いたり、居室に鏡とくしを置き、自分で整髪して頂いたり、クリームを塗って頂いている。馴染みの美容院をご家族の方と一緒に利用したり、ご家族にカットしてもらおう方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備、後片づけなど、出来る事を行なっている。食事を楽しんで頂けるよう、職員全員で話し合い、給食委員会でも献立・内容・形態についてより良い食事になるよう話し合っている。	法人内の厨房で作られたものを施設で盛り付けしている。誕生日会では、ホイップクリームからデコレーションしたケーキを作ったり、お楽しみ会でホットケーキやたこ焼きをみんなで作ったりすることが楽しみの一つとなっている。月1回栄養士が訪問し、話し合いをする場を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックし、摂取量の少ない方には好物を家族様に尋ね補ったり、補助食品などを利用している。水分も種類にこだわらず、こまめに摂取できるよう声かけを行っている。1か月に1回体重測定を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけをして歯磨きやうがいをして頂いたり、自分でできない方はガーゼで拭くなど清潔を保つことができるよう支援している。希望者は歯科の口腔ケアをうけておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄チェック表を作成し、排泄のリズムを把握して、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	トイレは2ヶ所ある。用紙での記録とタブレットを使って、排泄チェックをすることで、スムーズなトイレ誘導ができています。布パンツの方が約半数でオムツを使用している人はゼロ。昼はトイレへ誘導し、夜間のみポータブルトイレを使用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の種類や時間にこだわらず、こまめに摂取できるよう声かけを行ない提供している。毎朝の体操やボール投げで体を動かしたり、散歩をして気分転換を図って、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は行なっていませんが、日中いつでも入浴できる環境を整え、ゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者様の体調などに合わせ、車椅子浴・特殊浴の必要な方には、併設の施設で入浴していただいている。	基本は週2回。昇降機を導入したことで、利用者様の入浴がスムーズになり、職員の腰の軽減にもなった。誘導の際には、「髭剃りに行こう」など、お風呂というワードを使わずに誘導するように工夫している。乾燥肌の人には保湿ケアもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣・年齢・心身の状態に合わせて休息できるよう支援している。夜間安心してぐっすり眠れる様、日中の散歩や体操をし活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬管理表を作成し職員が常に把握できるようにしている。薬は一括で保管管理している。服薬時、職員が氏名・日付・服薬方法を確認して手渡し、服用の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の得意とする事ややってみたい事・好きな事を聞き、楽しんで頂けるよう工夫して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときには庭先でお茶やおやつを頂いたり散歩をしたりなど、当日の身体状態に合わせて支援している。例年は、職員と一緒に買い物に出かけたり、福祉ママの方に協力して頂いて遠足を実施したりしているが、昨年・本年と、新型コロナウイルス流行の為、中々外出支援が出来ていない。	個別で散歩に行きたい利用者への付き添いや施設内の桜の木の下で花見を行った。天気の良い日には、軒先のベンチで日向ぼっこをしたり、庭先でお茶会を開催したりして、身近でできる外出支援を行っている。また、施設内で歩行訓練も実施し健康的な時間も費やされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス流行の状況や本人様の希望などのようすをみながら移動販売に出かけ、お菓子や果物など好きなものを購入し、レジでの支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を利用できるよう支援している。又、手紙やはがきのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気・臭いがこもらない様窓を開け換気を行っている。共有の空間・各居室のエアコンを新しく入れ替え、LEDの電気に交換し快適に過ごしてもらえるようにしている。玄関・ホールには、四季を感じる事が出来る飾りつけをしている。	明るいきりびんぐでは、時代劇を観たり、新聞を読んだりしてティータイムを楽しんでおり、利用者が会話で弾む様子が窺えた。職員が手作りした作品の中に、利用者の笑顔の写真が飾られていた。季節にあった掲示物が好評で、玄関先の箱庭が利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にサンルームがあり、ご家族様と一緒に過ごしたり、1人でゆっくり外を眺めたりする事もできる。ホールにはソファを置き、お茶を飲んだり話をしたり、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様と相談して、使い慣れた生活用品・飾り・写真を持って来て頂いている。ご本人様が作った塗り絵・飾りなども部屋に飾り、居心地良く生活して頂けるよう支援している。	備え付けは、ベット、クローゼット、洗面台。表札を「果物の名前」にしてある。窓を開けると自然が広がり、ウグイスの鳴き声が癒しとなっている。壁面には、外出した際の笑顔でお弁当を食べてる写真やクリスマスに職員からプレゼントされたカレンダーが大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりを付け、ホーム全体がバリアフリーになっている。トイレ・浴槽にも手すりを付け、一人一人の身体機能を活かして、安全かつ自立した生活を送る事ができるよう支援している。		